第２回津島市総合戦略策定委員会

日　時　　平成２７年１１月１８日（水）
午後２時から
場　所　　津島市役所　５階　委員会室

【配布資料】
資料１　人口ビジョン 将来人口の設定
資料２　各種調査結果からみた課題
資料３　津島市総合戦略の重点的な戦略目標
資料４　津島市総合戦略骨子（案）

開　会

次第１　議題
議題１　人口ビジョン 将来人口の設定について

事務局より説明
〈委員〉
・人口ビジョン、将来人口の話は単なる数字合わせではないか。
〈委員長〉
・この数字は、先の行政計画のベースとなるものである。
・今後の市の施策の前提になる数字として設定する。
〈委員〉
・出生率 1.80・2.07 よりも、方策をどうしていくかが問題では。
〈事務局〉
・出生率 1.80 や 2.07 は国・県が使っている数値であるが、厳しい数値であると承知している。
・津島市としても厳しい数値であるが、様々な施策を検討していかなければならないと考える。
〈委員〉
・昼間人口は考慮しないのか。
〈委員長〉
・昼間人口は考慮しない。
・津島市と愛西市ではそれほど子育て施策に違いはないと考えるが、なぜ愛西市に人口が流れるのか。
〈委員〉
・多くの市民は、市の施策を知らないことが多い。
・子育てサービスが母親にうまく伝わっておらず、評判だけで、他市の方が良いとなってい

るのでは。
〈委員〉
・市町村の事業として、法律で決まっていること、市町村でできることは何か。
〈委員長〉
・よく言われるのは子ども医療費の補助が弱いこと。
・津島市は原則小学校３年生まで。他市町村はそれ以上対象としている。
〈委員〉
・委員の話では、子育てサービスは他市に負けていないということであるが、アベレージで見ると津島市は低いのでは。
〈委員長〉
・人口の設定は、出生率と転入率に分けられる。
・国・県に合わせた出生率を使用すると、それに基づいた施策・予算が必要となり、現実的ではないのでは。
・転入率については、今回の案よりももう少し上げることができるのでは。
・ターゲットがはっきりしているので、弱気にならなくてもいいのでは。
〈委員〉
・津島市の人口は何人になったら危険なのか。
〈委員長〉
・市民が少なくなればダウンサイジングしていくことになるので、一概には言えない。
〈事務局〉
・５万人台の人口維持は、検討していく必要があると考えている。
〈委員〉
・そういったことから人口設定してもいいのでは。
〈委員長〉
・人口ビジョンでは、見通しを立てるための筋立て、理屈立てが必要である。
〈委員〉
・他市でもこのような人口ビジョンを設定しているのか。
〈委員長〉
・違う市町村は少ない。
・ただ、県などは違う設定をしているところもある。
〈委員〉
・人口ビジョンを設定したとき、当委員会が責任を負うことにならないのか。
〈委員長〉
・当会議は、意見をいう会議であり、出された意見を元に市が決めていくものである。
〈委員〉
・人口ビジョンは設定するのか。
〈委員長〉
・当会議の意見を受けて設定することとなる。
・出生率を変えると、その根拠が必要となり難しいところはある。

・アンケートなどから 1.80 の根拠はあり、子育ての条件が整えば 1.80 にできるのではないか。
・出生率を増やすには、施策が増えないとおかしいのでは。
〈委員〉
・子ども医療の問題は非常に大きい。
・財政の問題として可能かどうか。
・可能であるということで人口ビジョンを設定する必要がある。
〈委員〉
・パターン３にすると、本当に可能かどうか他から質問が出るのでは。

議題２　各種調査結果からみた課題について
議題３　津島市総合戦略の重点的な戦略目標について
議題４　津島市総合戦略骨子（案）

事務局より説明
〈委員〉
・津島市に障がいのある方の高校が無いのはなぜか。
・津島市に障がいのある方の高校があれば、障がいのある方を育てている方が津島市にとどまるのでは。
〈委員長〉
・障がい児教育は県の教育委員会が行うものであり、どこに立地するかは県が決定する。
〈委員〉
・発達障がいの方が増えているので、そういった高校があると助かるのでは。
〈委員〉
・市の負担が増えるのでは。
〈委員長〉
・そうした施設があることで得られるプラス面も大きい。
・ハンディのある方に冷たい街であると思われてしまうことの方が大きなマイナスである。
〈委員〉
・総合戦略は、様々な問題や課題がある中で、どのように対処していくかという発想で組み立てられているが、津島はこうした街にしたいと訴えたほうがやりやすいのでは。
〈委員長〉
・小さな町では、そうした考えで行っているところもある。
・津島市の規模であると、そうした打ち出し方をしているところは少ないと考える。
・津島市は都市化されたエリアなので、例えば、歴史の街として打ち出したとしてもそれだけでは難しい。
〈委員〉

・人を増やすという発想であれば、メリハリが必要では。
〈委員長〉
・重点戦略目標からは、相応のメリハリは付いていると感じる。
〈委員〉
・名古屋まで名鉄電車で 30 分。乗客が増えればもっと早くなると言われている。
〈委員長〉
・津島市からの通勤者が万単位で増えると状況は変わってくる。
〈委員〉
・愛西市では、どこで人口は増えているのか。永和駅周辺なのか、佐織・佐屋の方なのか。
〈事務局〉
・特定の地域が増えているわけではない。
〈委員〉
・愛西市の子育て支援が充実している理由だけで、津島市から愛西市へ引っ越すとは思わない。
〈委員〉
・愛西市の永和や佐古木あたりが増えているのであれば、交通の便が影響していると思われる。
・そうでなければ子育て支援が影響しているのでは。
・骨子案について、他市と代わり映えしないのではないか。子育て支援の目玉を上げて方向性を出していくことが必要。
〈委員〉
・障がい者の高校は県の判断であるが、市が積極的になれば誘致することも可能では。
〈委員長〉
・障がい者の高校は増やしていく方向にある。今は三河の方で作ることになっている。
〈委員〉
・新規の住宅、空き家を買った方の金利を下げるような、企業として支援していくことも必要。
・30 歳代、40 歳代にとどまらず、50 歳代、60 歳代の男性を呼ぶなどの工夫も必要。
〈委員長〉
・資料２について、「問題点」、「要因・特徴・ニーズ等」は良いが、「検討課題」になると具体的な感じがない。
・資料３について、「現状分析」、「目指す方向」は良いが、「施策・事業」になると具体的なものが薄い印象がある。
・医療費などのお金の話だけが子育て環境ではない。
・便利さ、教育や子育ての質の問題である。
・近隣と差をつけた取組みを入れることはできないか。
〈委員〉
・津島市が行っている ALT（外国語指導助手）が６人というのは多いのか。
〈委員〉

・津島の規模で６人は多い。
〈委員〉
・もっと宣伝し、活用すべきである。
〈委員長〉
・津島市を宣伝することが必要である。
・津島市の給料は安いと聞くが、名古屋に比べれば低いかもしれないが、岐阜市と比べると高いと思う。
・所得が低いなら、夫婦共働きの奥さんの給料を上げて一定の水準を確保できるようにすればよい。
・特に、女性が起業しやすいような環境作りが必要である。
〈委員〉
・高齢化を考慮すると、定年退職者の再雇用などを総合戦略に盛り込まないのか。
・高齢者は増えていくが、働ける方も多い。
・そのような方の働き口になるようなことはできないか。
〈委員長〉
・そういった取組みは、名古屋の都心部と異なり売りになる。
・こうした具体的な施策が少ない印象を受ける。
・医療に関する不満が課題として上がっていない。
・こういった調査を行うと、病院が少ない、産婦人科が少ないなどの課題が出てくる。
・この課題が無いのは、津島市にとって強みではないのか。
〈事務局〉
・５年前の満足度は低かったが、直近の調査では上がってきている。
・５年前の市民病院と状況が変わってきている。
・市内の診療所の数は多いのではないか。

挨　拶

（星野副市長）　最初の方で話題になった人口については、いろいろな計画のベースになるものなので出さないわけにはいかない。出さないと施策がつくれない。しかしそれはいろいろなところに影響してくる。市の大きさ、市街地の広さ、電気、水道、ガス、インフラ、学校はどうするのか。南の方の学校は厳しい、ならば人口はどうするのか、存続させるのかどうかの判断と関係してくる。実際どうするのか「選択と集中」でばっさりとするわけにもいかない。そんな簡単なことではない。

　しかし、人口が減るのは確かである。津島市という街がどこまで人口減に耐えられるかであるが、たぶんどこかで耐えられなくなっていく。すでにこれだけの人口で作るとして取り掛かってしまっている事業がある。たとえば流域下水道がそうである。人口が減少する中でどうするのか、足抜けすることが果たしてできるのか。ひょっとするとやらないといけないのかもしれない。したがって、トレンド推計して４万人とするのでなく、自治体としては人口は保ちたいと考えている。保ちたいという気持ちを持ち、どうやって保って

いくのかを考えなくてはいけない。

私どもは、津島という街はそう悪い街ではないと認識している。ただし売り出し方が下手である。今時の「イ・ショク・ジュウ」は、医療、職、住まいといわれる。津島市では繊維産業は確かに衰退したが、では市民が仕事にあふれたかと言えばそうではなく、業態が変化したということである。とはいうものの、市のマイナスイメージを振りまくよりは、プラスのイメージを振りまきたいと思っている。悪いことでなく、良いことを言っていきましょうと言っている。

津島市はもともとどういう町かと考えたとき、湊町であり門前町であり、そして繊維の街であったが、住宅都市であると考えている。市内には昭和 40 年代の住宅都市の資産がいっぱいあふれている。しかし 40 年、50 年を経過して陳腐化している。住宅都市としてはあまり呼ばれないが、名古屋に働きに行く者が過半である状況から見ても住宅都市であり、そこのところに政策課題があると思っている。

かつては、小規模な事業主が街にたくさんおられた。小さな織屋さんや町中に商店があった。たくさんの事業所があったわけで、それが町の生活を支えていた。そうしたものがないと、たぶん街の住みやすさを成し遂げられないと思っている。このまちの成り立ちをどう組み立て直していくかを考えたい。

次第２　その他

特になし

（事務局より）

第３回津島市総合戦略策定委員会は、12 月 18 日（金）の 14:00～開催する。